

# 安倍晋三元総理のご冥福を願ひ

近年、コロナ禍やウクライナ問題など驚くことが沢山ありましたが、今回の事件もそれに並ぶくらい私としては衝撃でした。このようなことが今の日本で起こるのかと。この事件でメディアを騒がせている旧統一教会や政教分離の問題など私として思うことは多々あるのですが、まずは今回の事件で命を落とされた**安倍晋三元総理のご冥福**を願ひたいと思います。人それぞれ考えはあるでしょうし、私自身は熱烈な自民党員というわけではありませんが、戦後最長の日本の総理であり、精力的に選挙活動をしている最中に銃撃されて亡くなるという突然の訃報は**私個人としては残念に思う**ことが多いです。そしてそれは亡くなられた安倍元総理当人にとっても同じでしょう。突然だったこともあり、本人・周囲の者もさぞ心残りなどの未練があろうかと思ひます。そういった時こそ、ぜひ丁寧に供養すべきだと仏教者としては思うのです。人は皆、この世で生き抜き、徳を積んだ後は黄泉路を進み、お裁きを経て仏になるのだと言われていおり、葬儀では**故人の生前の徳を讃え**、諸仏諸天善神へと報告し、**黄泉路での引導を願う**のが大切なことだと言われております。だからこそ、今回は**安倍元総理の功績を私なりに振り返って**みたいと思ひます。ただ、多くはメディアなどで取り上げている通りですので、私が確かにと思つた一部を今回はご紹介したいと思ひます。私が好きなジャーナリストの一人として田崎史郎氏がいらつしゃいます。安倍元総理と親交が深く、「政権担当者がどう考へているのかを伝えることが仕事」という意図でかなりわかりやすく政策を解説して下さる為です。その田崎氏が事件後にニュース番組で安倍元総理のことを振り返り、とても印象深い演説が**真珠湾における追悼演説**だと発言してました。前提として「真珠湾」「パールハーバー」とはアメリカで「アメリカ合衆国にとって恥辱の日」とされる第二次世界大戦の始まる場所・日時であり、現代においても反日感情が高まる日とされています。そして安倍総理は就任当時、「強硬派」「主戦派」の総理として見られアメリカから警戒されていたそうです。しかし、この真珠湾における**演説をしてからは**見方が変わり、当時のオバマ大統領、そして全くタイプが違う次のトランプ大統領の時も対立せず、一層交流を深めて**日米同盟はかつてないほど強固になった**と言われております。そういう意味では田崎さんは「ひとつの分岐点だった」と紹介されてました。私もニュースなどで安倍総理の真珠湾追悼訪問のニュースは聞いていたのですが、演説全文までは読んだことがなかったのでこれを機に読んでみました。裏のページにスペースの関係上、演説の一部を抜粋させて頂きました。まだ、ネット上には演説全文が何個か残されていますので皆様も興味があれば全文をご覧ください。ここには**現在のウクライナ問題や台湾問題にも通じることも書いてあります**し、まるでこれからの未来も予言したような文章だなと思ひました。私としてはこのような演説をして世界の信用を勝ち取り、**現在に繋がる国防や政策の一助を担って頂いた安倍元総理に改めてご冥福を願**

## ○安倍総理の真珠湾での演説『日本経済新聞』より抜粋。

オバマ大統領、ハリス司令官、ご列席の皆さま、そして、すべての、アメリカ国民の皆さま。パールハーバー真珠湾に、いま私は日本国総理大臣として立っています。(中略)あの日、爆撃が戦艦アリゾナを2つに切り裂いたとき、紅蓮(ぐれん)の炎の中で死んでいった。75年がたったいまも、海底に横たわるアリゾナには、数知れぬ兵士たちが眠っています。耳を澄まして心を研ぎ澄ますと、風と波の音とともに、兵士たちの声が聞こえてきます(中略)。

そのみ霊よ、安らかなれ——。思いを込め、私は日本国民を代表して、兵士たちが眠る海に花を投じました。

オバマ大統領、アメリカ国民の皆さん、世界のさまざまな国の皆さん。私は日本国総理大臣として、この地で命を落とした人々のみ霊に、ここから始まった戦いが奪ったすべての勇者たちの命に、戦争の犠牲となった数知れぬ無辜(むこ)の民の魂に、永劫(えいごう)の哀悼の誠をささげます。戦争の惨禍は二度と繰り返してはならない。私たちは、そう誓いました。そして戦後、自由で民主的な国を創り上げ、法の支配を重んじ、ひたすら不戦の誓いを貫いてまいりました。戦後70年間に及ぶ平和国家としての歩みに、私たち日本人は、静かな誇りを感じながら、この不動の方針をこれからも貫いてまいります。(中略)オバマ大統領とともに訪れた、ワシントンのリンカーン・メモリアル。その壁に刻まれた言葉が私の心に去来します。

「誰に対しても、悪意を抱かず、慈悲の心で向き合う」。

「永続する平和を、われわれすべてのあいだに打ち立て、大切に守る任務をやりとげる」。

エイブラハム・リンカーン大統領の言葉です。私は日本国民を代表し、米国が、世界が、日本に示してくれた寛容に、改めてここに、心からの感謝を申し上げます。

あの「パールハーバー」から75年。歴史に残る激しい戦争を戦った日本と米国は、歴史にまれな、深く強く結ばれた同盟国となりました。それは、いままでにもまして、世界を覆う幾多の困難に、ともに立ち向かう同盟です。明日を拓く、「希望の同盟」です。

私たちを結びつけたものは、寛容の心がもたらした、the power of reconciliation、「和解の力」です。私がおこパールハーバーで、オバマ大統領とともに、世界の人々に対して訴えたいもの。それは、この和解の力です。

戦争の惨禍は、いまだ世界から消えない。憎悪が憎悪を招く連鎖は、なくなろうとしない。寛容の心、和解の力を、世界はいま、いまこそ必要としています。憎悪を消し去り、共通の価値のもと、友情と信頼を育てた日米は、いま、いまこそ寛容の大切さと、和解の力を世界に向かって訴え続けていく任務を帯びています。日本と米国の同盟は、だからこそ「希望の同盟」なのです。(中略)パールハーバーを和解の象徴として記憶し続けてくれることを私は願います。そのための努力を、私たちはこれからも惜しみなく続けていく。オバマ大統領とともに、ここに、固